

RFQ-RFP方式による官民連携の運動施設整備事業(紫波町)

(1)事業概要

社団法人岩手県サッカー協会が事業主体となって、サッカープレイヤーやサッカーに係わる人材の育成を目指して、フットボールセンターを整備した。平成23年4月30日、岩手県内初の日本サッカー協会公認グラウンドとして認定された。

紫波町の支援の下、オガール紫波(株)が誘致活動を行い、事業実施が決定した。これ以降も、岩手県サッカー協会の事業パートナーとして整備事業の事務局として、オガール紫波(株)が企画・運営を担った。整備にあたって、紫波町は岩手県サッカー協会に6,000万円の助成を行い、また協会は紫波町に対して借地代として年間300万円を支払っている。

(2)特徴・ポイント

・RFQ-RFP方式による選定

フットボールセンターの整備事業の事業者選定にあたって、RFQ(Request for Qualification; 資格審査)とRFP(Request for Proposal; 技術提案審査)の二段階審査を実施。効率的・効果的な事業者選定を実現。

世界最高水準の人工芝の導入

ドイツ・ポリタン社のロングパイル「Liga Turf 265RS」を導入。バイエルンミュンヘンのトレーニングセンターやスタッド・ドゥ・スイス(スイス代表チーム本拠地)にも採用されている世界最高水準のロングパイル人工芝を採用。

・優れた立地とデザイン

JR東北本線 紫波中央駅から徒歩3分。電車を利用すると盛岡駅から22分、北上から28分で到着。紫波町の中心市街地にあり、隣接施設には図書館、マルシェ、カフェ、レストラン、庁舎、ホテル等がある。クラブハウスは、デザインガイドラインに沿って暖色系を基調としている。また、クラブハウス内には暖房のために薪ストーブ(米国製)も設置し、循環型まちづくり、木質系材料・資源の利用を推進している。

■事業の主な内容

(出典)オガール紫波視察資料

項目	内容
事業名	岩手県フットボールセンター整備事業
発注者	社団法人 岩手県サッカー協会
事業内容	<p>岩手県サッカー協会が紫波町から町有地(オガールプロジェクト敷地内)を借り入れ、フットボールセンター(グラウンド、クラブハウス等)を整備。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■人工芝サッカー場 120m×90m(10,800㎡)1面 JFA公認 ■夜間照明 6基 ■クラブハウス 木造2階建て(床面積309.7㎡)1棟 ロッカールーム 2室 ■総工費 1億7,000万円
事業方式	RFQ-RFP選定方式
選定事業者	大成ロテック(株)、佐々木建設(株)、(株)久慈設計
事業費関係	<p>総工費 1億7,000万円</p> <p>(整備時)日本サッカー協会から岩手県サッカー協会へ 7,500万円助成</p> <p>紫波町から岩手県サッカー協会へ6,000万円助成 (賃貸料)岩手県サッカー協会から紫波町へ300万円/年</p>



(出典)PPP財団撮影

(出典)大成ロテック<http://www.taiseirotec.co.jp/works/sports/>